

じっくり心をこめて

スロー フード

80



いわしの大葉チーズロール揚げ

いわしなどの青身の魚に含まれているDHA・EPAは余分な中性脂肪やコレステロールを低下させる作用があります。週1～2回食べると効果的です。

《今月のご紹介》

関川村食生活改善推進員 の皆さん

材 料 (4人分)

- ・いわし 4尾 ・大葉 4枚
- ・プロセスチーズ 2枚 ・インゲン 適量
- ・塩 少々 ・コショウ 少々 ・揚げ油
- ・プチトマト 適量 ・レタス 適量

【A】

- ・小麦粉 適量 ・とき卵 適量 ・パン粉 適量

作り方

いわしは、頭と内臓をとり、手開きにして中骨を取り除く。

いわしの身の方に軽く塩コショウをして、大葉・チーズをのせて巻き、ようじで止める。

Aの順に衣をつけ、170度の揚げ油できつね色に揚げる。インゲンも半分折り素揚げする。

器にいわしを盛り、付け合わせにレタス・インゲン・プチトマトを添える。

せきかわ文芸

短歌

誘われし旅も行けずにこもりいて
しほるる気持をひとり慰む

須貝 恵美
(高田)

菊花展照る日吹く日も雨の日も
共に過ごして今日の日和も

佐藤 庄七
(愛広苑)

寂しさが傍らかたわらに来て座わるらし
夫の晩酌首尾よく終わる

小池 啓子
(下関)

太陽のごとき衣裳を身に纏い暫し
アラブの女となりぬ

渡辺千恵子
(上関)

今し落つ栗の皮はだ艶やかに
拾う手元に毬いかりの刺さしあたる

山口 藤枝
(辰田新)





関川村職員として村の発展に貢献した園部修は昭和五年五月二十四日関川村下関に伊藤乙吉の三男として生まれた。昭和二十六年三月新潟県立村上高校関谷分校（関川分校）を第二回生

近・現代 関川郷の人びと

執筆者：佐藤貞治（「せきかわ歴史とみちの館」館長）

園部修

として卒業。長年にわたって同校の同窓会長を務め陰に陽に母校の運営を支援し、同校閉校の際には記念事業実行委員長を務め閉校式典の挙行、勲学の碑の建立、記念誌「三十年のあゆみ」を刊行した。

昭和二十六年六月三十日関谷公民館主事に任ぜられた。進駐軍からの借用の映写機（ナトコ）で各集落を巡回。慰安をかねて住民の落ち着きをとりもどすこと、青年に働く意欲をもたせることなどを主眼に活動した。

昭和三十一年三月十日下関の園部家の養子となる。

昭和四十年四月一日総務課消防係長となる。特筆すべきことは昭和四十二年の八・二八羽越水害時の活躍である。避難が遅れた打上集落の三戸を救助のため、園部修部長のもとで役場若手職員九名による人命救助隊が編成され、孤立して身動きのできない家族を濁流を冒して辰田新へ避難せしめたのは夜半の一時過ぎであった。八・二八水害の記録「天災のあらし」を著した近研三氏は「人命救助の至誠に燃えた一行の崇高な行動は脳裏に焼きついて離れることはない」と述べている。

昭和四十五年企画課長補佐を務めた後、昭和四十九年四月岩船広域事務組合への出向を命ぜ

られ、四年間消防署南分所々長として広域消防のために尽力。

出向を終え昭和五十三年四月保健衛生課長、同年十一月税務課長、昭和五十六年四月企画課長を歴任。昭和五十七年四月商工観光課長を命ぜられた。昭和五十八年三月二十七日、首都圏在住関川村人会が発足し、同年四月一日「いで湯の関川ふる里会」を発足させた。これら二つの会は村の観光宣伝に大きく貢献している。

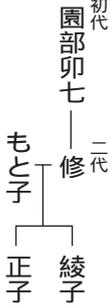
平成三年三月三十一日退職。

下関城は下関の南方の山なみの一画に中世の頃構築された山城である。園部修は平成十六年四月下関城址顕彰会（会長園部修）を立ち上げ、やぶを刈り払い立派に整備し、下関の街並みが一望できる憩いの場とした。史跡の整備と保全に尽くした功績は大きい。

青年時代は相撲を得意として各地で催された相撲大会に関ヶ嶽という名で出場し活躍した。

また洋ランの栽培を趣味として熱心に研究し立派な花を咲かせ役場庁舎などを飾った。平成二十一年七月十日七十九才でこの世を去った。

園部家の系図



せきかわ文芸

関川俳句の会作品

鮮やかな喜雨に打たれし庭の木々
渡辺しづい

秋海棠雨に重たく俯きぬ
南 セツ

再会の思ひがけなき秋桜
渋谷 くに

木犀や黄金小路を歩みけり
青木 慶一

せきかわ川柳会作品「相手」「絡む」

何げなく相手を連れて盆帰省
渡辺しづい

教養も酒で乱れる絡む癖くせ
平田 千恵

再入院後期福祉に感謝する
佐藤 ノブ

人情の絡みに頼る老の坂
南 セツ

一人居が難を逃がれた甘い農
本間 イミ